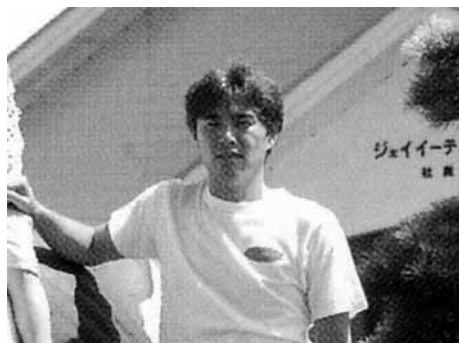


## リスクの軽減を追求した大型乳肉複合経営の実践



栃木県芳賀郡市貝町  
農業生産法人有限会社  
ジェイイーティーファーム  
(代表：代表取締役社長 篠田教雄)

### 1 地域の概況

市貝町は、東西約 9.9km、南北約 15.6km の長方形をしており、県都宇都宮から東へ約 24km に位置する。西南部は平坦で耕地が多く、東北部は山野などの自然に恵まれており、ナシとイチゴの有数な産地である。また、東部を流れる那珂川はアユの漁場として全国的にも有名である。

温暖な気候帯に属しており、とくに生活に著しく影響を及ぼす災害発生の要素もないことから、家畜の成育には好適な環境にあるといえる。

交通は常磐自動車道及び北関東自動車道に容易にアクセスできることから、大消費地東京への生産物の有利販売、生産資材の有利購入等物流面において非常に有利な事業展開の行える地域である。

### 2 経営の歩み

現在の会長兼 CEO である篠田修紀氏は、父親の経営する農業（稲作、麦）、食肉店を手伝い昭和 42 年に父親から経営を受け継ぎ、同時に家畜商として営業しながら昭和 54 年に北海道江別市で肉用牛肥育経営を開始した。

昭和 62 年、北海道で肉牛を生産し出荷するよりも、大消費地である関東近郊で農場を入手することが有利であるとの考えから栃木県芳賀郡に肉用牛肥育農場を開設した。

平成 2 年からは栃木牧場で酪農を開始し、本格的な乳肉複合経営体制となっている。

その後、着実に頭数を増加させ、平成 17 年 1 月現在、グループ全体で乳牛 2,400 頭、F<sub>1</sub>子牛育成牛 1,700 頭、F<sub>1</sub>肥育牛 2,300 頭、黒毛和種子牛約 120 頭を飼養している。

年次	経営および活動の経過
昭和 30 初め	・代表北海道江別市で父親の家業の農業（稲作、麦）を手伝いながら、家畜商に携わる
昭和 45 頃	・家畜商の傍ら、乳用種去勢牛約 30 頭を飼養開始
昭和 54	・（有）江別肉牛ファーム設立（資本金 1,200 万円）乳用種去勢牛 300 頭飼養 ・農業生産法人になる
昭和 62	・栃木県市貝町に栃木牧場開設、（有）栃木ファーム（資本金 1,000 万円）乳用種去勢牛 1,200 頭飼養 ・北海道別海町に中標津育成センター開設、初生牛育成 350 頭収容
昭和 63	・江別牧場で搾乳事業開始、乳牛 60 頭飼養
平成 2	・（有）江別肉牛ファームを（有）ジェイイーティーファームに社名変更（資本金 4,560 万円） ・栃木牧場で搾乳事業開始、乳牛 200 頭飼養、乳肉複合経営開始 ・江別牧場の搾乳事業を中止、搾乳事業の主体を栃木に移す
平成 7	・生乳年間出荷量 5,000 t を達成
平成 8	・笹原田農場購入（8 ha）
平成 10	・栃木牧場に新搾乳舎完成、搾乳牛 1,000 頭体制整備
平成 11	・黒田牧場購入（3 ha）
平成 13	・大谷津牧場完成（5 ha）肥育牛 2,200 頭収容、肉用牛肥育事業の主体を移管
平成 15	・給与飼料の全てを Non-GMO 化 ・6 月に本社を栃木牧場に移転 ・杉山農場購入（37ha） ・生乳年間出荷量 15,000 t を達成 ・全農安全安心システムの認証取得
平成 16	・黒田牧場に ET センター完成、育成牛 1,000 頭収容 ・（有）JET・アグリサポート設立（資本金 500 万円）
平成 17	・椎谷農場購入（38ha） ・ISO9001 認証取得

### 3 経営・生産の内容

#### 1) 3法人によるグループ生産体制

ジェイイーティーグループは、乳肉複合のメガファームを基礎として、生乳生産部門、F<sub>1</sub>育成肥育部門、乳用もと牛育成部門、和牛子牛育成部門、たい肥生産部門、自給飼料生産部門を有している。各部門はさまざまな農業情勢、市場変動、消費動向等を踏まえての縮小拡大が可能となっており、例えば、和牛子牛育成部門については、現在、販売価格が高値で推移することから、和牛子牛販売を中心としているが、市場によっては自ら和牛肥育にも取り組める体制となっている。

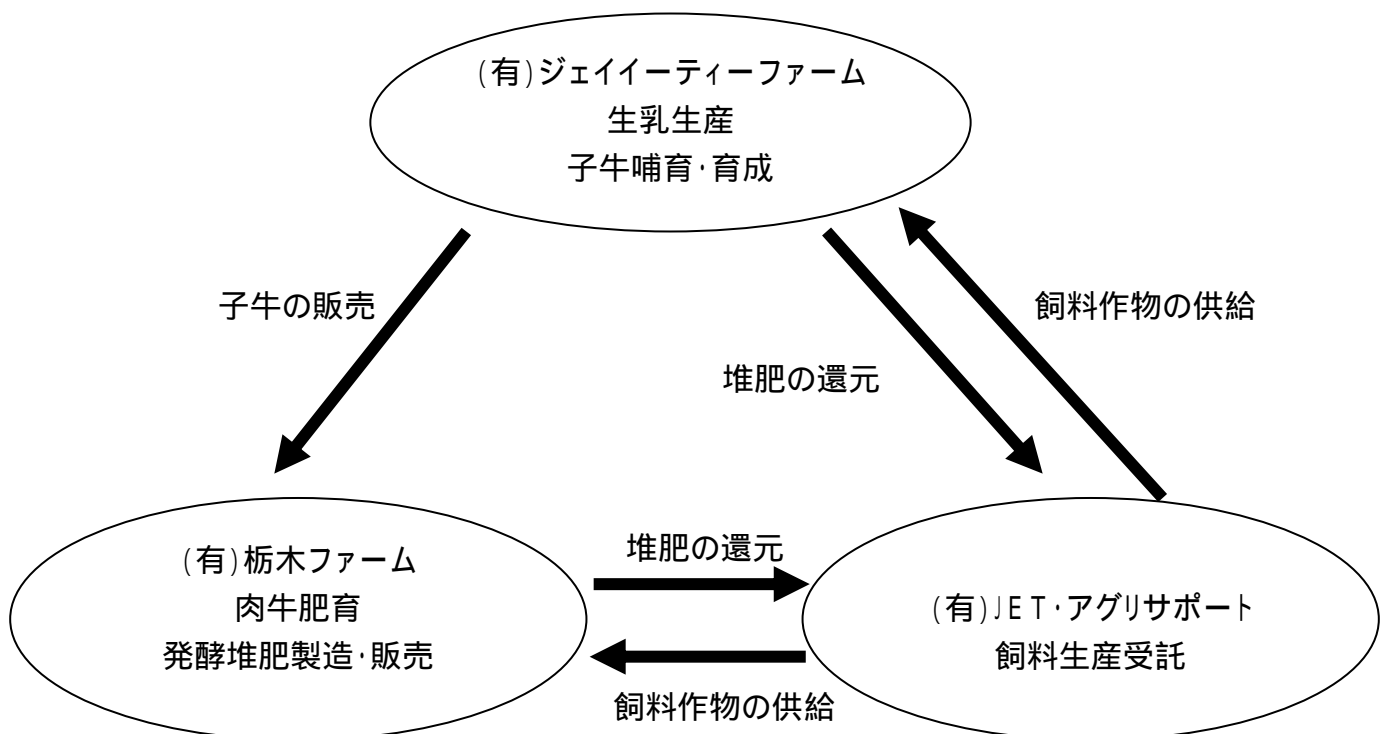
これらの部門を3つの法人(農業生産法人 有限会社 ジェイイーティーファーム、農業生産法人 有限会社 栃木ファーム、有限会社 JET・アグリサポート)に分離して経営している。

法人名称	資本金 (万円)	事業内容	従業員数 (人)
農業生産法人 有限会社 ジェイイーティーファーム	4,560	生乳生産 産生子牛のほ育・育成	55
農業生産法人 有限会社 栃木ファーム	3,000	肉用牛肥育 たい肥製造・販売	10
有限会社 JET・アグリサポート	500	飼料生産受託	1 他部門から パート

1：従業員には、パート及び外国人研修生も含む。

2：従業員のうち約半数が地元採用。

#### ジェイイーティーグループの会社業容



2) 飼養概況

(1) 飼養頭数

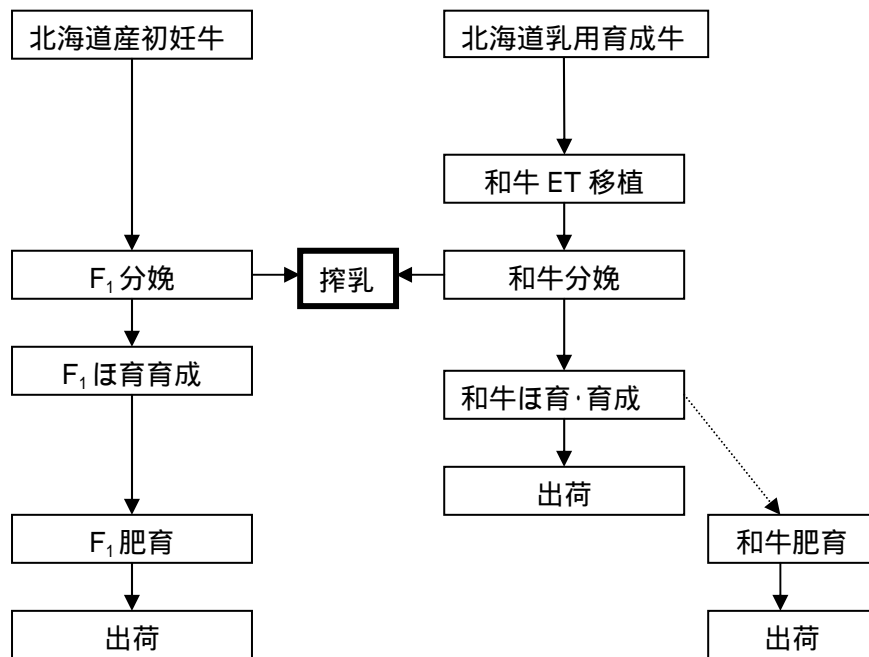
平成 17 年 1 月現在

			ホルスタイン		F <sub>1</sub>		黒毛和種
			経産牛	育成牛	子牛 育成牛	肥育牛	子牛
			(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)
ジエイ イティー ファーム	栃木牧場	栃木県芳賀郡市貝町	1,950		1,200		120
	江別牧場	北海道江別市				100	
	中標津育成センター	北海道野付郡別海町			200		
栃木 ファーム	大谷津牧場	栃木県芳賀郡市貝町				2,200	
	黒田牧場	栃木県芳賀郡茂木町		450	300		
計			1,950	450	1,700	2,300	120

平成 17 年 6 月現在

			ホルスタイン		F <sub>1</sub>		黒毛和種
			経産牛	育成牛	子牛 育成牛	肥育牛	子牛
			(頭)	(頭)	(頭)	(頭)	(頭)
ジエイ イティー ファーム	栃木牧場	栃木県芳賀郡市貝町	2,000		1,300		180
	江別牧場	北海道江別市				80	
	中標津育成センター	北海道野付郡別海町			200		
栃木 ファーム	大谷津牧場	栃木県芳賀郡市貝町				2,200	
	黒田牧場	栃木県芳賀郡茂木町		500	500		
計			2,000	500	2,000	2,280	180

## (2) 乳肉複合生産体制の流れ



## 3) 生乳生産

### (1) 生乳生産

ジェイイーティーファーム現在の飼養頭数（ホルスタイン種）は経産牛が約2,000頭、うち搾乳牛が約1,600頭である。

牛舎は全てフリーバードで、搾乳はミルクングパーラー方式である。ミルクングパーラーは25頭ダブルのものを2式導入しており、搾乳牛を大きく2ロットに分け、1ロット（搾乳牛約800頭）につき1式を配置している。

1日3回の搾乳で日量約45tを生産しており、平成16年の生乳生産量は15,773t（全国1位）であり、北海道に次いで2番目の生産量を誇る栃木県内生産量の約5%を占める。

### (2) 生乳出荷

生乳は全量を酪農とちぎ農業協同組合に出荷し、各乳業メーカーに送られている。うちタカナシ乳業では「ジェイイーティー牧場牛乳」という商品名で大手スーパーやコンビニエンスストア、百貨店等向けに、また、針谷乳業では宅配専門業者の独自ブランドとして販売している。

### (3) 経産牛の更新

主として北海道より初妊牛（黒毛和牛を種付）を購入している。2産目以後は黒毛和種を種付け（人工授精と本交による方法）し、F<sub>1</sub>子牛を生産している。

#### 4) F<sub>1</sub> ぼ育・育成

約 1,500 頭飼養されているぼ乳・育成牛は、約 7 ヶ月齢で栃木ファームに売却している。

ガスを使用した暖房装置、断熱効果の高い屋根材、二重カーテン、強制換気システム等による環境制御を行っている。また、ぼ乳ロボットを 9 基導入し、子牛管理の省力化と集中管理を行っている。

#### 5) ET による和牛子牛の生産

付加価値製品を作出する目的から ET による初産の牛からの和牛子牛生産事業にも取り組み、現在 180 頭を飼養し、約 10 ヶ月齢で地元の矢板家畜市場に出荷している。なお、この事業を実施するために育成牛を購入し、現在約 500 頭を飼養している。

この部門については、現在、子牛販売価格が高値で推移することから、子牛販売を中心としているが、将来的には肥育し、肉牛として出荷していくことを考えている。

#### 6) 肉用牛肥育

##### (1) 酪農の知恵を生かした飼養方法

栃木ファームの黒田牧場と大谷津牧場では、ジェイイーティーファームから生後 7 ヶ月齢で子牛を買い入れ、飼養している。飼養にあたっては、酪農の知恵を生かし、飼育牛に快適な環境づくりと経営効率化を図っている。

牛舎は、一般的な肥育牛舎に比べて天井を高くとって輻射熱を予防するとともに、各牛房ごとに扇風機を取り付けて空気の流れを起こし、暑熱対策を行っている。なお、扇風機の利用は厳冬期でない限り利用しており、暑熱対策というよりもむしろ牛床乾燥のために効果を上げている。

また、飼槽を廃止し、飼料給与の作業効率を高めている。

##### (2) 出荷

約 30 ヶ月齢まで肥育し出荷しており、平成 16 年の出荷実績は 1,747 頭、B-3 以上格付率は 70% 強である。現在、全量を全農栃木県本部に販売し、全農経由でイオングループには銘柄「栃木牧場牛」として、また、一部は高島屋及び千葉そごう、レストラン等で銘柄「栃木ファーム牛」として販売されている。

#### 7) 衛生管理・疾病対策

専属の嘱託獣医師が毎日巡回し、問題牛の指摘、疾病の予防・治療を行っている。

疾病予防対策として、消毒槽の設置、入場車両の消毒、場内清掃の励行、従業員の服装統一（ユニフォーム、長靴、帽子の支給）、扇風機、細霧システムの設置、定期的な防虫、防鼠、野犬対策、植樹、園芸等の環境設備等を行っている。

また、乳房炎の対策として実施している布タオルでの乳房清拭は、万全を期すため、タオルの消毒・乾燥業務を外部の専門業者に委託している。

## 8) 給与飼料と自給飼料生産の取り組み

### (1) 飼料

飼料は、消費者のいわゆる「安全・安心」という志向に対応し、平成15年1月から配合飼料、混合飼料、単味飼料の全てにおいて、Non-GMOの証明つきの原料を全ての農場、全てのステージで使用している。

とくに配合飼料については代用乳を除き、当社のオリジナル銘柄とし、全てのステージで抗菌性物質の飼料添加を排除している。

### (2) 現在の取り組み内容

Non-GMO飼料の給与に取り組んでいるが、現在、量的、質的に安定供給が図られることから外国(USA、豪州、カナダ)より良質なものを選び、大型コンテナで購入し、給与している。コスト的にみて輸入品が有利であるとの判断であるが、輸入飼料に全面依存という不安定要素の回避、消費者に理解される自給飼料をもとにした畜産物生産の実現の夢があった。

このため、地域の離農した酪農家等からの農場の購入、休耕水田の利用、遊休地の借り上げ等による土地集積を積極的に図るとともに、平成16年に「(有)JET・アグリサポート」を立ち上げ、飼料生産を開始した。

なお、会長は地域とともに歩いていくことを一番に考えており、飼料生産に係る遊休地の利用にあたっては、価格面、さらには土地条件面について、近隣酪農家が不利にならないような配慮を行って、借り受けている。

平成17年、約25haのデントコーン作付けを行った。

農場名	区分	面積	入手年	土地の所有者	作付状況(H17)
杉山農場	自己	37ha	平成15	ジェイイーティーファーム	約25haに作付け (デントコーン)
笹原田農場	自己	8ha	平成8	栃木ファーム	
遊休地(大谷津牧場周辺)	借地	6ha	-	借り上げ	
椎谷牧場	自己	38ha	平成17		新規購入

### (3) 今後について

新規購入した椎谷牧場や遊休地の利用等により、3年後には作付面積を80haにまで増産する計画である。

また、周辺農家が規模拡大に伴って飼料作物生産の労働力不足を生じた場合には、作業を受託するコントラクター事業の展開も構想にある。

## 9) 家畜排せつ物の処理・利用

### (1) 処理方法

栃木ファームで実施している。ジェイイーティーファームと栃木ファーム両社の牛ふん発生量は1日当たり200~250tであり、この処理も大きな課題の一つである。規模拡大に伴う適切な対処を図るため、数年前からたい肥置場、発酵処理のプロアー施設、スクープ式処理機等を設備してきた。

現在、栃木牧場で約13,000m<sup>2</sup>、大谷津牧場で3,150m<sup>2</sup>、黒田牧場で1,300m<sup>2</sup>

のたい肥施設を保有している。スクープ式処理機（シングル3台、大型ダブル1台）を利用した一連の処理により、生ふんから発酵たい肥の完成までを約2.5カ月の期間で処理することが可能となっている。なお、水分調整材は、オガクズを利用している。

(2) 利用方法

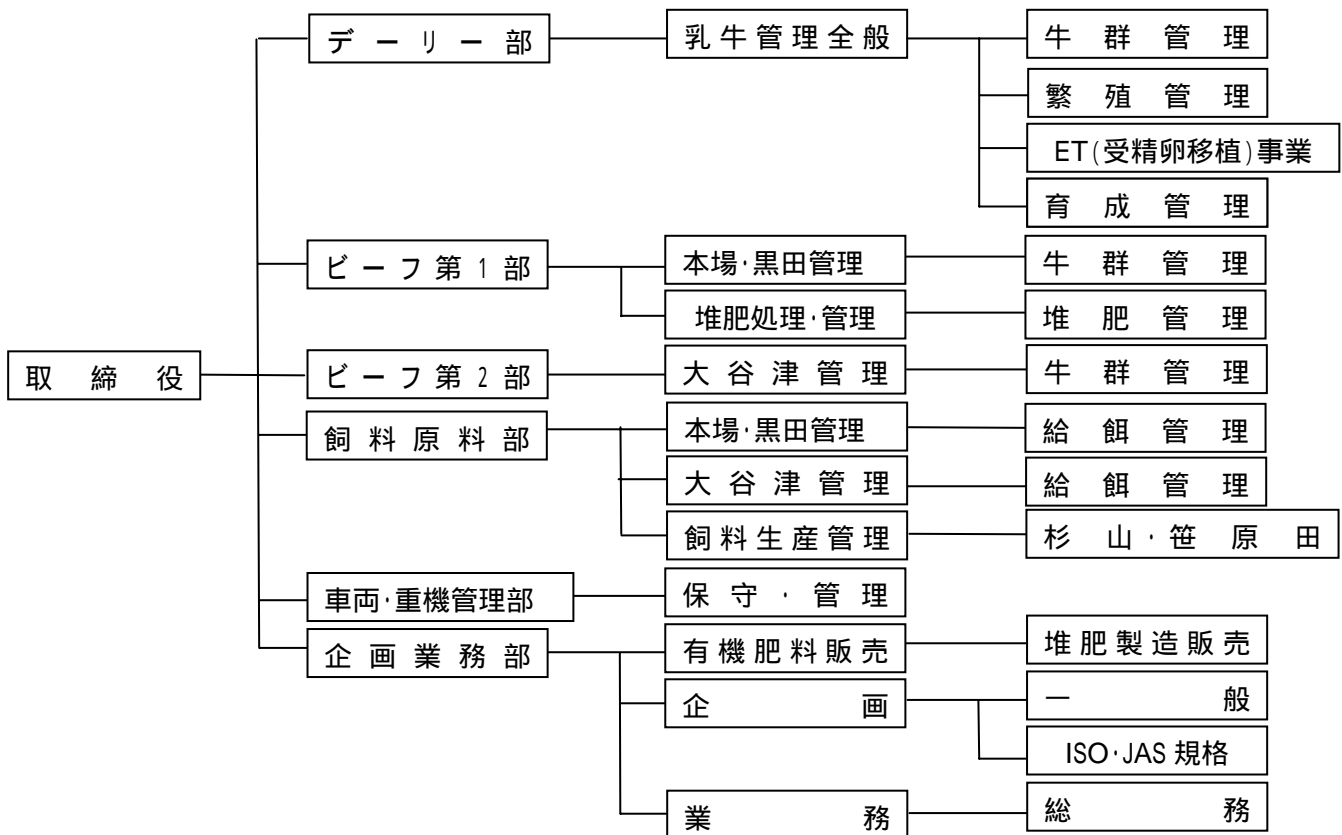
内容		割合	備考（販売・利用先等）
販売	袋詰め	3割	「緑の大地」や「スロード」という名称で販売
	バラ		ホームセンターや園芸資材店に販売
無償譲渡		若干	近隣耕種経営に譲渡
自家利用	戻したい肥	6割	ジエイティファーム、栃木ファームで利用
	施肥	1割	JET・アグリポートで利用

たい肥販売収入：約6,000万円（平成16年度実績）

## 4 業務体制

(1) 体制図

ISO9001 を取得していることから、全ての作業がマニュアル化されている。業務は、それぞれの作業ごとにリーダーが設置されており、その下で遂行されている。





## (2) 福利厚生等

		大学卒	短大・専修学校卒
給 与	基 本 給	120,000 円	105,000 円
	諸 手 当	80,000 円	75,000 円
	昇 給	年 1 回 4 月	
	賞 与	年 2 回 6 月・12 月	
勤務体系	勤 務 時 間	AM7:00 ~ PM5:00 ( 休憩 11:00 ~ 13:00 ) 変則シフト制有り	
	休 日 ・ 休 暇	変則 4 週 6 休制	
福利厚生	社 会 保 険	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険完備、財形	
	宿 舎	社員寮有り	

## (3) 社員教育の実施

人材教育メニューとして研修や海外視察などが用意されている。しかし、会長が言うには社員間の競争意識の醸成がもっとも効果的とのことであり、ISO9001で設定したマニュアルに従い働きながら教育を行う、いわゆる OJT を実施している。

## 5 今後の目指す方向性

現在の生産性重視の経営方針は堅持しつつ、ET による和牛生産や、飼料作物の自給による後継牛の育成等の取組みを充実させ、乳肉複合モデルを構築していくことを考えている。

新たな取り組みとして、安全・安心を追求した自然循環型農業のモデルとなるような新農場（牧場）の建設を行いたいと考えている。

付加価値を求めた「有機 JAS」に認定される牛乳及び牛肉の生産はもとより、野菜、果樹等の有機農産物を生産・販売し、畜産と農業がリンクして自然循環できるようなシステムを構築したいと考えており、環境マネジメントシステム ISO14001 の認証も視野に入れて検討している。

シルバー世代や主婦層の人材が働ける事業、農業や酪農の実践講座を持つ学校教育や、農業後継者の育成が図れる事業の展開を考えている。

認定農業者組織活動への積極的な参加と情報の交換、畜産農家や耕種農家との連携による地域に根ざした経営の確立を図り、集落営農への貢献にも努めていきたいと考えている。

平成 17 年 5 月に品質マネジメントの国際認証「ISO9001」の認証を受けたことで、従業員の意識改革とスキルアップが図られるという副次的な効果を生んだが、これにとどまることなく、今後さらに改善し、より良い品質マネジメントシステムを構築していきたい。